

目指すはグリーン・イノベーションのフロントランナー

(株式会社 西部技研)

会社概要(平成24年12月現在)

- 所在地:福岡県古賀市青柳3108-3
- 代表者:代表取締役社長 隈 扶三郎
- 資本金:1億円
- 売上高:48.6億円
- 従業員数:200名
- URL:<http://www.seibu-giken.com>

①事業概要

<デシカント除湿機・全熱交換器等製造・販売>

株式会社西部技研は、現社長の父である隈利實氏が九州大学工学部研究室勤務のかたわら、隈研究室を設立したことから始まった会社。大学発ベンチャー企業の先駆け。

主な製品は、ハニカム構造を生かした全熱交換器や、除湿機、VOC濃縮/濃縮燃焼装置(有害物質を除去する機器)等である。

国内では顧客のニーズに応じたオーダーメイド製品が多く、全熱交換器の国内シェアは7割を占めている。平成22年頃からはこれまで培った除湿技術を結集し、コンパクトドライルームやグローブボックス等のソリューションシステムも提供している。

②海外展開概要

<北米、中国等への現地法人設立>

同社は、平成5年にスウェーデンの除湿機メーカーを買収して以降、平成13年にSeibu Giken America, Inc.(米国)、平成19年に西部技研環境設備(常熟)有限公司(中国)を設立。

日本を中心に、ヨーロッパ、アメリカ、中国の各拠点が連携し、四極体制で各市場のニーズにマッチングした製品開発を行っている。中でも中国子会社では平成22年に5,000坪の土地の借地権を購入し、建築面積6,000㎡の自社工場を設立。製造現場としても重要な拠点となっている。

25年前に世界で初めてシリカゲルを使った除湿ローターを商品化し、現在、世界シェア3割を獲得している。

諸外国の特許も取得しており、海外特許登録済51件、出願中4件。

③取組の重点(活用した支援策を含む)

中国進出にあたっては、当初上海に駐在員事務所を立ち上げ、現地のジェットロを通じた情報収集を実施。その後、江蘇省常熟市への進出を決定した。

同社の成功の秘訣は、コア技術の生産は日本で行う一方、現地採用のキーパーソンの育成に注力しており、現地でできることは可能な限り現地に移管している。子会社社員を日本本社で研修させるなど人材交流を活発に行っており、各拠点の良い点を融合させ、日本、ヨーロッパ、米国、中国の四極体制による同社独自の経営スタイルを構築している。

④今後の事業展開について

日本、ヨーロッパ、米国、中国による四極体制をさらに強化しつつ、東南アジア、南アジア、中近東などの新興国市場の開拓に注力する。今後新興国における省エネの必要性が高まるにつれ、さらにシェアが拡大するよう尽力する。



除湿機用ハニカムローター



全熱交換器



(平成24年12月現在)

データ出所:九州経済産業局